

疫学情報 2017年5月9日分

<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/04/25/09.html>

平成29年度 東京都健康安全研究センター

環境保健衛生講習会 感染症を媒介する蚊対策講習会

日時 平成29年6月14日(水曜日)午後2時00分から午後5時00分まで

場所 渋谷区文化総合センター大和田さくらホール(渋谷区桜丘町23-21)

内容 講演1 蚊が媒介する感染症について

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 忽那賢志氏

講演2 蚊(ヒトスジシマカ)の生態

一般財団法人日本環境衛生センター東日本支局 武藤敦彦氏

講演3 身近でできる蚊の対策

日本防疫殺虫剤協会 足立雅也氏

募集人数 700名(入場無料・申込者多数の場合は抽選)

申込み方法 電話、はがき、ファクシミリ、メールにより、下記の1)から8)を記入し、お申込みください。※参加証をお送りするため、1)と2)は必ず記載いただき3)~5)についてはいずれかの記載をお願いします。

1) 氏名(フリガナ)、2) 電話番号、3) 住所、4) ファクシミリ番号、5) メールアドレス、6) 業種(お勤めの方のみ)、7) 同行される方全員の氏名、8) 講習会でお聞きになりたい内容、ご質問

※手話通訳が必要な方は、その旨を申込み時にお知らせください。

※参加証は開催1週間前までにお送りいたします。

(申込み期限)

平成29年6月1日(木曜日)必着

(申込み先) 蚊対策講習会運営事務局

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-9(株式会社成光社内)

電話: 03-6661-7516(平日9時00分~17時30分) ファクシミリ: 03-6661-7517

メールアドレス: kansen2017@seiko-sha.co.jp

[http://www4.city.kanazawa.lg.jp/23801/kansen/mashin\\_2\\_2\\_3.html](http://www4.city.kanazawa.lg.jp/23801/kansen/mashin_2_2_3.html)

麻しん(はしか)患者の発生について(随時更新)

金沢市保健所 地域保健課 感染症対策係

患者1から4例目まで

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/24298/1/290410dai1hou.pdf>

初発患者情報

知って安心！今村先生の感染症塾 2017年4月27日

今村顕史（いまむら・あきふみ）がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長  
コラム

## 春なのに…インフルエンザ流行の不思議

### 「春インフル」が話題に

インフルエンザは、毎年、冬に大きな流行を繰り返しています。そのイメージが強いことから、「暖かくなってくれば、インフルエンザにかかる心配はない」と考えている方も多いと思います。ところが、埼玉県の高校で全校生徒966人のうち101人がインフルエンザの症状で欠席し、4月18日に学校閉鎖となったというニュースがありました。その1週間ほど前にも、有名な野球選手がインフルエンザにかかったということが話題となりました。そして、全国各地で散発的な流行が続いていることから、「春インフル」という言葉もみられるようになっていきます。

### 流行のパターンは？

日本におけるインフルエンザの流行は、通常は毎年12月頃に始まって、翌年の1～3月にピークを迎えます。また、前半は、A型のインフルエンザが中心となって流行し、後半には、B型が増える傾向があります。そして、インフル流行のピークを越えても、5月上旬頃までは地域ごとに散発的な流行を起こすというのが典型的なパターンとなっています。

したがって、「春インフル」というのは、決して珍しいことではないのです。インフルエンザが冬に流行しやすいのは、気温や湿度の低下が関与していると考えられています。しかし、B型が遅く流行する理由なども含めて、季節的な流行の原因が詳しくわかっているわけではありません。

### 夏にも発生

インフルエンザは、春だけでなく、夏にも発生することがあります。たとえば、2009年に世界的な大流行を起こした「新型インフルエンザ」は、夏頃には日本各地でも広がりをはじめ、夏休み明けには全国的な流行となりました。しかし、このインフルエンザは、夏に流行する特別なウイルスだったわけではありません。その証拠に、この時に流行したウイルスは、翌年からは冬の流行を繰り返す普通のインフルエンザとなっています。

また、台湾や東南アジアなどの亜熱帯地域では、年間を通してインフルエンザの発生がみられています。つまり、インフルエンザは夏には発生しないというわけではないのです。

実は沖縄県でも、10年以上前から夏のインフルエンザ流行が起こるようになっていきます。その原因としては、亜熱帯地域からの旅行者の増加、エアコンによる室内の低温・乾燥、そして沖縄自体が亜熱帯化していることなどが指摘されています。しかし、旅行者の増加や、エアコンの使用は、沖縄に限ったことではありません。また、亜熱帯地域において、インフルエンザが通年性に発生する原因も明らかにはなっていないのです。

### ゴールデンウィーク後も要注意

流行のピークは越えたとはいえ、まだインフルエンザは各地で散発的な集団発生を起こしています。ゴールデンウィークのような長期休暇は、学校や会社が休みになることで、感染症の流行を終息させるように働く可能性があります。しかしその一方で、全国各地への移動や大型イベントによって、地域の散発流行を拡大させることもあります。

また、海外旅行にも注意が必要です。年間を通じて発生している亜熱帯地域はもちろん、北半球の夏は南半球では冬に当たるため、そろそろインフルが発生しはじめる時期となります。このような地域への旅行者が、現地でインフルエンザにかかるかもしれないのです。

感染症は、1人の発症をきっかけに広がっていきます。みなさんも、インフルエンザの「残り火」をもらわないように、人混みに出かけた後の手洗いなどの日常的な対策を継続しておきましょう。

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/H28AI/h28\\_hpai\\_kokunai.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/H28AI/h28_hpai_kokunai.html)

平成 28 年度我が国における高病原性鳥インフルエンザ国内発生事例について

更新日：平成 29 年 4 月 18 日

担当：消費・安全局動物衛生課

平成 28 年 11 月 28 日に青森県において、今年度、家きんでは国内初となる高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認され、平成 28 年 12 月 1 日に高病原性鳥インフルエンザ（H5N6 亜型）であることが確認されました。平成 29 年 3 月 30 日現在、9 道県 12 戸の農場で高病原性鳥インフルエンザが確認されています（全て H5N6 亜型）。

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/H28AI/attach/pdf/h28\\_hpai\\_kokunai-38.pdf](http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/H28AI/attach/pdf/h28_hpai_kokunai-38.pdf)

